



アンナ・メアリー・ロバートソン・“グランマ”・モーゼス《家族のピクニック》1951年 個人蔵(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)© 2022, Grandma Moses Properties Co., NY

Celebrating the 160th Anniversary of Her Birth  
**GRANDMA  
MOSES** A Retrospective  
Exhibition

国内巡回  
最終会場

生誕160年記念

# グランマ・モーゼス展

素敵な100年人生

会期中無休  
2022 4.12(火) - 5.22(日)

展覧会公式ホームページ [www.grandma-moses.jp](http://www.grandma-moses.jp)

東広島市立美術館 (広報担当: 桑原 学芸担当: 所)

〒739-0015 広島県東広島市西条栄町9番1号

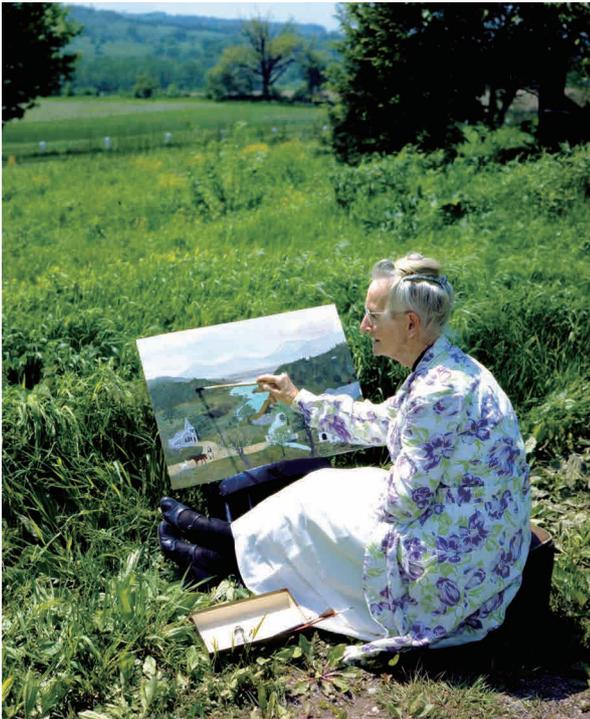
TEL: 082-430-7117 FAX: 082-430-7118

E-MAIL: 2636026@izumi-techno.jp WEB: <https://hhmoa.jp/>



東広島市立美術館

HIGASHIHIROSHIMA CITY MUSEUM OF ART



庭で絵を描くグランマ・モーゼス 1946年 写真：Ifor Thomas  
(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)

## 人生は自分で作りあげるもの。 これまでも、これからも。 —グランマ・モーゼス

グランマ・モーゼス(モーゼスおばあさん)の愛称で親しまれ、アメリカの国民的画家として知られるアンナ・メアリー・ロバートソン・モーゼス(1860-1961)。無名の農婦だったモーゼスは、70代で本格的に絵を描きはじめ、80歳のときにニューヨークで初個展を開きます。日常の暮らしや季節ごとの行事、眼の前に映る風景などを素朴な筆遣いによって描いた作品と、そのユニークなキャリアにより一躍人気画家になりますが、生涯、農婦として堅実な日々を送り、101歳で亡くなる年まで1,600点以上の作品を遺しました。

生誕160年を機に企画された本展では、最初期の作品から100歳で描いた絶筆、そして刺繍絵やモーゼスの生涯を物語る愛用品・関連資料など、日本初公開を含む約130点を展示します。

昨年4月から大阪、名古屋、静岡、東京と巡回した本展は、当館が最終会場となります。

「人生100年時代」の今、自然や素朴な暮らしを愛し、たくましく誠実に、素敵な100年人生を生きたグランマ・モーゼスの世界を、この機会にぜひご覧ください。

### ■ 開催概要

展覧会名 | グランマ・モーゼス展—素敵な100年人生

会 期 | 2022年4月12日(火)～5月22日(日) 会期中無休

時 間 | 9:00～17:00 (入館は閉館30分前まで/ただし、4月12日(火)は10:00開館、4月29日(金)・5月20日(金)は19:00まで開館)

会 場 | 東広島市立美術館3階展示室、2階展示室

主 催 | 東広島市立美術館、中国新聞社

後 援 | アメリカ大使館、NHK広島放送局、中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、  
広島エフエム放送、(株)広島リビング新聞社、プレスネット、KAMON ケーブル、FM東広島89.7MHz、  
尾道エフエム放送

協 力 | ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク、日本航空

協 賛 | 損保ジャパン、NISSHA

企画協力 | 東映

前売券販売所 | セブンチケット (セブンコード: 092-884 <http://7ticket.jp/s/092884>)

※販売期間: 2月12日(土)～4月11日(月)まで/当館での販売はございません。

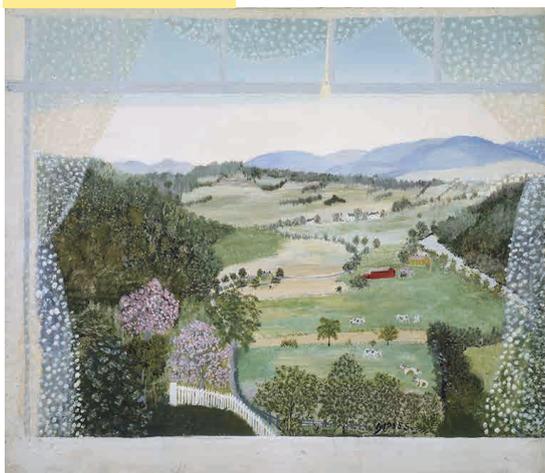


## ■ 展覧会の構成

### 第1章「アンナ・メアリー・ロバートソン・モーゼス」

グランマ・モーゼスのほとんどの作品は、ニューヨーク州とヴァーモント州にまたがる田園とその土地の人々の日常を描いたものです。モーゼスは、生涯を通じて暮らし、愛した身近な風景を変わることなく描き続けました。第1章ではモーゼスと縁のある場所や人生の転機となった作品、また絵画を始める前から得意とした刺繍絵などにより、グランマ・モーゼスの人物像を紹介します。

#### 日本初公開



1 《窓越しに見たフージック谷》1946年

個人蔵（ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託）

#### 日本初公開



2 《海辺のコテージ》1941年

個人蔵（ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託）

### 第2章「仕事と幸せと」

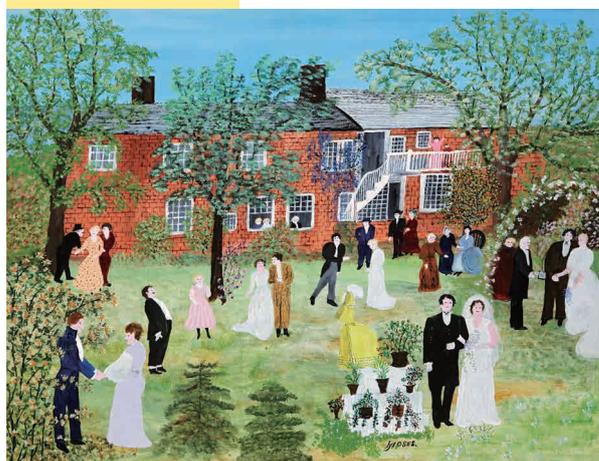
モーゼスの絵は、当時の人々が自力でやらなければならなかった様々なことを教えてくれます。キルトや石鹸、ロウソク作り、作物の収穫など。こういった活動の多くに人々の集いが伴いました。つまり仕事とは、仲間意識を育む楽しい機会でもあったのです。こうした精神は、結婚式や引越しを手伝うといった地域の行事にも現れます。第2章ではモーゼスが描く家族や村の人々との素朴な日常の暮らしを紹介します。

#### 日本初公開



3 《キルティング・ビー》1950年

個人蔵（ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託）



4 《村の結婚式》1951年 ベニントン美術館

### 第3章「季節ごとのお祝い」

モーゼスは農場の暮らしについて、“毎日ほとんど変化がないけれど、季節だけは移ろう”と語っています。だからこそ、村の人々はそうした季節の微妙な変化を大切にし、そして季節ごとの特別な行事がありました。春の訪れの予兆として楓(かえで)の樹液がめぐり始める2月には、樹液からメープル・シロップと砂糖を作るシュガリング・オフ。夏にはピクニック。晩夏から初秋にかけてはアップル・バター作り。そして秋と冬にはハロウィーンやサンクスギビング、クリスマスと続くのです。



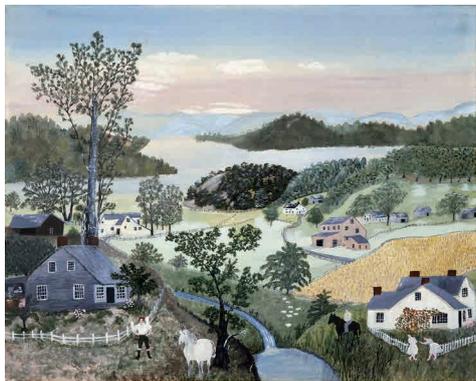
5 《アップル・バター作り》 1947年  
個人蔵 (ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)



6 《家族のピクニック》 1951年  
個人蔵 (ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)

### 第4章「美しき世界」

グランマ・モーゼスの絵で最も大切なテーマは、自然の変わらぬ美しさです。自然は過酷な仕打ちをすることもある、けれども人間が理解と敬意をもって自然と接するならば恵みを与えてくれる存在だと、農婦だったモーゼスは知っていました。自然は穏やかで平穏な時も、混乱と脅威と化す時もある。モーゼスは自然の静と動、そのどちらにも敬意を表し、目の前に映る美しき世界をとらえました。第4章では自然を主題にした作品を紹介します。そして、100歳で描き絶筆となった《虹》もご覧いただけます。



7 《美しき世界》 1948年  
個人蔵 (ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク)



8 《虹》 1961年  
個人蔵 (ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)

5, 6, 7, 8 いずれも アンナ・メアリー・ロバートソン・“グランマ”・モーゼス All Images © 2022, Grandma Moses Properties Co., NY

### 愛用品・資料

日本  
初公開



《孫娘のために作った人形》 1932年 ベニントン美術館  
(ゾイン・コロセウスとフランセス・ルドゥウィグによる寄贈)

日本  
初公開



《手作りのキルト》 1961年以前 ベニントン美術館

## ■ 関連イベント ※新型コロナウイルス感染拡大の影響により、内容を変更する場合がございます。

### ① 講演会「グランマ・モーゼス：アメリカン・ノスタルジーの世界」

本展監修者である千足伸行氏にグランマ・モーゼスの作品とその人生についてお話いただきます。

日 時 4月23日(土) 14:00～15:30

講 師 千足伸行氏(本展監修者、成城大学名誉教授、広島県立美術館館長)

会 場 当館1階アートスペース

定 員 40名(参加無料、事前申込制)※お申込は1組4名まで

締 切 4月8日(金) 必着



### ② 館長トーク「グランマ・モーゼスの今日的意義」

当館館長がグランマ・モーゼス展公式図録の巻末エッセイで取材した、広島県庄原市で農業を中心に自然と共生しながら生活を営む上田英馬氏をゲストにお招きし、グランマ・モーゼスの芸術と今日的意義についてトークします。

日 時 5月7日(土) 14:00～15:30

ゲスト 上田英馬氏(牧場勤務・農業)

講 師 松田弘(当館館長)

会 場 当館1階アートスペース

定 員 40名(参加無料、事前申込制)※お申込は1組4名まで

締 切 4月22日(金) 必着



▲ゲスト 上田英馬氏(牧場勤務・農業)

### ③ ワークショップA「生せっけんを作ろう！」

好みの香りを選んで、東広島市西条の酒粕を使ったお肌や環境にやさしい生せっけんを作ります。

日 時 4月16日(土) 14:00～15:30

講 師 楠本あいこ氏(西条楠本)

会 場 当館1階アートスペース

定 員 10名(事前申込制)※お申込は1組2名まで

対 象 小学生以上(小学生は保護者同伴)

参加費 500円

締 切 4月1日(金) 必着



### ④ ワークショップB「蜜ろうキャンドルを作ろう！」

みつばちが作り出す“蜜ろう”で、簡単でかわいい世界にひとつだけのキャンドルを作ります。

日 時 5月14日(土) 14:00～16:00

講 師 宮原美鈴氏(アトリエにじ主宰・アートセラピスト)

会 場 当館1階アートスペース

定 員 10名(事前申込制)※お申込は1組2名まで

対 象 小学生以上(小学生は保護者同伴)

参加費 500円

締 切 4月28日(木) 必着



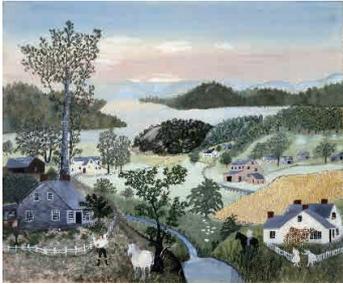
## 東広島市立美術館 広報用画像申込書

■FAX 082-430-7118 ■E-mail 2636026@izumi-techno.jp (東広島市立美術館 指定管理者 ㈱イズミテクノ)

| 申し込みフォーム   |         |        |        |
|------------|---------|--------|--------|
| 貴媒体名       |         |        |        |
| 貴社名/部署     |         |        |        |
| ご担当者名      |         |        | E-mail |
| ご住所        | 〒       |        |        |
| ご連絡先       | TEL     | FAX    |        |
| 放送日        | 年 月 日   | 掲載号発売日 | 年 月 日  |
| 放送/掲載内容    |         |        |        |
| 画像データの必要期限 | 年 月 日まで |        |        |

※上欄にご記入いただいた個人情報、広報用画像貸出の目的のみに使用し、それ以外の用途には使用いたしません。

広報用画像一覧掲載ご希望の画像 (□にチェックをいれてください)

|        |   |        |  |        |   |
|--------|---|--------|--|--------|---|
| ①<br>□ |   | ③<br>□ |   | ⑤<br>□ |   |
| ②<br>□ |  | ④<br>□ |  | ⑥<br>□ |  |

■作品キャプション

①アンナ・メアリー・ロバートソン・“グランマ”・モーゼス 《家族のピクニック》 1951年 個人蔵

(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託) © 2022, Grandma Moses Properties Co., NY

②アンナ・メアリー・ロバートソン・“グランマ”・モーゼス 《キルティング・ビー》 1950年 個人蔵

(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託) © 2022, Grandma Moses Properties Co., NY

③アンナ・メアリー・ロバートソン・“グランマ”・モーゼス 《アップル・バター作り》 1947年 個人蔵

(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託) © 2022, Grandma Moses Properties Co., NY

④アンナ・メアリー・ロバートソン・“グランマ”・モーゼス 《美しき世界》 1948年 個人蔵

(ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託) © 2022, Grandma Moses Properties Co., NY

⑤庭で絵を描くグランマ・モーゼス 1946年 写真: Ifor Thomas (ギャラリー・セント・エティエンヌ、ニューヨーク寄託)

© 2022, Grandma Moses Properties Co., NY

⑥アンナ・メアリー・ロバートソン・“グランマ”・モーゼス 《孫娘のために作った人形》 1932年 ベニントン美術館

(ゾイン・コロセウスとフランセス・ルドウウィグによる寄贈)